

房山 蕃

# 月を流さず

和尚の語り草

早坂 文明 著

宮城県亶理郡山元町の曹洞宗徳本寺は、早坂文英前住職から文明住職の今に至るまで30年以上テレホン法話を続けてい

始まった「テレホン法話ライブ」である。本書はその10年の記録集だ。

第5回以後は東日本大震災後のものである。早坂住職は、震災の1方5千人を超える死者について「限らない可能性を信じて、今の今を学んで、働いて、一生懸命生きていた。よもや今日死ぬとは誰も思っていなかったはずだ。そうだった方々の思いを、正に永遠に生きるがごとく学ぶ、そのつもりで私たちは伝え続けなければなりません」と語る。

犠牲もはなはだしかった。再建への道は心がくじけそうになるほど辛かった。だが「水急にして月を流さず」—どんな困難に遭っても、流されない月のように動じないでしっかり生きていきなさい—という言葉を胸に刻み、多くの縁に支えられながら仏の教えで人々を励まし続ける。震災が直撃した寺院がこれほど力強いエネルギーを宿していることには驚きと感動を覚えるだろう。

ゲストとして登場するのは浄土真宗本願寺派僧侶でシンカーソングライターのやなせなな氏やシヤンティ 国際ボランティア会の鎌倉幸子氏ら。杉下城司氏による本の設計も工夫が凝らされている。(B5変判・140頁・価1500円+税)



月を流さず

早坂文明著